

日航とガルーダ、共同運航など包括提携を発表

2018年9月6日 16:25

日本航空は6日、東南アジアの航空大手ガルーダ・インドネシア航空と包括提携すると正式発表した。10月28日から日本とインドネシアを結ぶ路線や両国の国内線で共同運航（コードシェア）を始める。将来的には運航ダイヤの調整などを両社で手掛ける提携に踏み込む方針だ。全日本空輸と連携してきたガルーダは日本での提携先を日航に切り替える。

共同運航するのは国際線ではガルーダが運航する羽田—ジャカルタ線や成田—デンパサール（バリ島）線、日航が運航する成田—ジャカルタ線。さらに日航による成田—ニューヨーク線、成田—ロサンゼルス線も共同運航の対象とする。今後はマイル交換の相互連携なども進める。

ガルーダはこれまで全日空と共同運航してきた。10月以降の一定期間、ガルーダは全日空とも日航とも共同運航する見通し。その後ガルーダと日航は、運航ダイヤや運賃戦略について両社で協議する航空業界特有の提携スキームである共同事業を目指す。全日空とガルーダの提携は将来的に解消される見込みだ。

ガルーダは北米路線を強化する方針で、日米間の共同運航に意欲を示した日航に提携先を切り替えた。航空連合ワンワールドに加盟する日航と、スカイチーム加盟のガルーダという航空連合の枠を超えた提携となる。

インドネシアは人口が2億6000万人で世界4位。訪日観光の需要が高まっているうえに同国に拠点を持つ日本の自動車関連企業が多く、ビジネス需要も高い。観光とビジネス両面の需要を掘り起こす狙いがある。

日航は同日、2019年2月から羽田—フィリピン・マニラ線を開設することも発表した。提携と新規路線の両面で東南アジア事業を強化する。

（志賀優一）



記者会見するガルーダ・インドネシア航空のバハラ社長(左)と日本航空の藤田副社長(6日午後、ジャカルタ近郊)=小高顕撮影



記者会見で握手を交わすガルーダ・インドネシア航空のバハラ社長(左)と日本航空の藤田副社長(6日午後、ジャカルタ近郊)=小高顕撮影

関連キーワード: 業務提携 ガルーダ航空 日本航空 全日本空輸 共同運航